

平成24年度第4回経営工学教育FD/IT活用研究委員会議事概要

- I. 日 時：平成24年9月28日（金） 17：00～20：30
- II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室
- III. 出席者：渡邊委員長、玉木委員、細野委員、水野委員、小池委員、佐々木委員
（事務局）井端事務局長、森下主幹、野本職員

IV. 議事概要

1. 学士力を設定した背景について

前回の委員会で確定した「学士力を設定した背景」に関して、下記の意見を踏まえて修正を行った。

第1段落：経営工学が目指すより広いかつ大きな使命として、新しい価値の創造に貢献するとした。

第2段落：前後の段落との繰り返しの表現を避け、より分かりやすい表現にした。

第3段落：本質は変えずに、より簡潔に表現に変更した。

2. 到達目標の解説について

- ・ 前回の委員会で確定した到達目標1の解説は、本来の達成度を超える内容が多く含まれているため、大幅な修正を行った。また、「ここでは、・・・ねばならない。そのために、・・・を目指す。」の形式に統一した。また、4つの到達目標についても 「・・・できる」という表現に統一した。
- ・ 到達目標の解説は、委員からの案がもとに検討が行われ、統一された形式に整えられた。
- ・ 到達目標3は、到達目標そのものを修正する意見から、以下に変更した。「到達目標3. 企業や組織体の活動を効果的にするため、マネジメント技術に関する知識とスキルをシステムの計画・設計・運用・管理・改善に活用できる。」
- ・ 到達目標4の解説については、本委員会で修正された学士力を設定した背景との整合性をとるために、はじめに到達目標4を「企業や組織体の活動に関わるシステムの構築を通じて、経営上の新しい価値を創造するビジョンを描くことができる。」として再構築した。次に到達目標4の解説を確定した後、あわせてコア・カリキュラムのイメージを「科学技術政策、イノベーションマネジメント、リスクマネジメント、環境マネジメント、国際経済、基礎的法知識、技術者倫理、国際標準、知的財産、異文化理解、社会問題理解など」、到達度を「①企業や組織体の活動が国内外の社会に及ぼす影響について理解できる。②現代社会やグローバル化の課題、戦略的アプローチや経営革新について理解できる。③企業や組織体の社会的責任と経営倫理について理解できる。」、測定方法を「①から③は、客観式・論述式の筆記試験や卒業研究などにより確認する。」に見直し・修正を行った。

3. 授業の仕組みの概念図について

提出された概念図に関して説明があり、これに対して学習者の表現に関して分かりにくいとの指摘があった。①ネット上の学修支援システムを中心に据えること、②経営工学の様々な知識（分野）を結合・統合できるような学修支援システムにすること、③授業の中だけの活用ではなく、授業の後の振り返りまで全体を包含するような仕組みであること、④文字は極力少なくすることの意見があった。より明確なイメージを持つために他分野の概念図を参考にして経営工学分野としての概念図の再構築を行うこととなった。①もう少し早い段階で基本イメージを提示してほしかった、②学修支援システムをメインにするのであれば、分野ごとの概念図を個別に描くよりも、分野共通の概念図を構築し標準化を進めるべきであるとの意見があった。授業の仕組みの概念図は、一部修正してシナリオで再利用することとした。

V. 今後に関して

修正した概念図が挿入された教育改善モデルをメールで確認をすることにした。